

C.C.O.M

広島 の 生協

平和とより良き生活のために

APR.2016
VOL.55

広島県生活協同組合連合会

発行 2016年4月5日



新年度

新年度を迎えて 1 - 2

「エネルギー問題への警鐘、電力自由化と生協」

高田 公喜 広島県生協連合会専務理事

特集1:「協同組合学習会」

協同組合学習会 3 - 4

・記念講演

「成熟した協同組合の課題と新しい役割」

滋賀県立大学 環境科学部教授 増田 佳昭

・研究会活動報告

特集2:「福祉・医療を考える」... 5 - 6

・介護セミナー

・介護職員キャリアアップセミナー

・実践交流会（広島医療生協）

会員だより・トピックス 7・8

・電力小売自由化学習会

・広島中央保健生協 60 周年記念講演会

・広島中央保健生協 健康づくり学会

・広島医療生協 50 周年健康まつり

・消費者団体活動交流会

事務局だより 9・10

・核と人類セミナー

・特定商取引法を知ろう④ 消費者ネット広島

・理事会報告

・第6回福祉・介護委員会報告

・組織平和委員会報告

【公告】広島県生協連 2016 年度通常総会の開催

【告知】2016「戦争も核兵器もない平和な世界を」
市民の集い

『日々のことから』 11

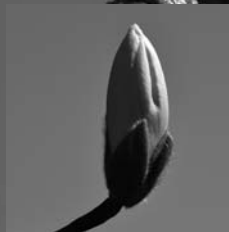
「核兵器廃絶に向けた取組みについて」

（公財）広島平和文化センター常務理事 城 一博

・編集室から

【表紙の言葉】

春は、出会いと始まりの季節。そして花の季節でもあります。とくに、「桜の花」は、人々の思いによせて、とりわけその開花が待ち望まれます。澄んだ早朝の空気と青空の元、今や遅しとはち切れんばかりの花芽を膨らます桜の花の蕾。蕾の先に垣間見える白、希う（こいねがう）という言葉にふさわしい「希望」を含んで…。



こ
い
ね
が

希
う

エネルギー問題への警鐘と電力自由化と生協

広島県生活協同組合連合会
専務理事 高田 公喜



一枚の絵が語る世相

日本古来の浮世絵と現代の風刺画は相通じるものを感じます。「浮世」という言葉には「現代風」という意味もあり、当代の風俗を描く風俗画でありまゝ。代表的な大和絵の流れを汲み、総合的絵画様式として世界的にも高い評価がある文化的背景を持っています。私は、小学校の頃に切手収集の趣味があり、写楽や見返り美人などの浮世絵切手がほしくて仕方ありませんでしたが、当時は、大変高価で憧れるばかりでした。昨年、「国連気候変動枠組組み条約第21回締約国会議」(COP21)がフランス・パリ近郊で開催されました。ある芸術団体がパリ市内で600種類以上の風刺ポスターなどを掲示した風刺作品の中には、安倍首相の頭の上から煙がもくもくと立ち上っているコラージュもありました。作者のビル・ポスターズさんによると、ここに描かれているのは原発だということです。風刺画は、言葉で相手に伝えるのではなく、一枚の絵で世相や権威者をちよつと皮肉つたもので相手に伝えるから時に奥深さを感じます。

再生可能エネルギーへの転換

さて、福島第一原発の事故から5年の月日が経ちました。この前、広島市内で「核と人類・フクシマ後に考える」というテーマの講演会を聞きに行きました。広島平和文化センター前理事長ステイブ・ブーン・リーパーさんが主宰し、アメリカから原子力発電技術専門家のアーニー・ガンダーセンさんと生物学者のメアリー・オルソンさんが、それぞれの立場で講演されました。A・ガンダーセンさんは、「核廃棄物処理の問題は存在する」とし、プルトニウムを再処理するにしても25年以上もの間、高レベル核廃棄物は廃棄されたままになると問題提起されてきました。また、少なくとも4つの国でプルトニウムを商業用原子炉から直接入手し、原子爆弾を作るために再処理したと報告されました。一方、M・オルソンさんは、放射線は、染色体異常を誘発し、成人して電離放射線被ばくした人の癌死亡率が、男性2人に対して女性3人の確率であると報告されていました。放射線規制は、今まで「標準人」として成人の男性を基準にしてきたが、

放射線は、子供(0〜5歳)により有害だとも報告されていたことが印象的でした。ちなみに、2015年世界の原子力発電所は、391基あり、日本には52基あるそうです。(出典：世界の原子力発電所の原子炉の数2010年)

私たちの時代は、ヘタをすると偉大なる「負の遺産」を未来に残すことになるかもわかりません。例えば、原発の課題の一つが原発から出る「核のゴミ」を廃棄する最終処分場の受け入れ先がないということです。一時の経済効果を優先するあまり、大変なコストを将来にわたって科すことにならないか大変危惧しています。

エネルギー問題に対する生協の考えは、再生可能エネルギーへの転換を政策として提言しています。今年、4月から電力の自由化に向け動き出します。私たち生協は、この大きな制度改革に先立ち「家庭用エネルギーの料金制度に関わる新たな政策制度研究会」を立ち上げ「今まで地域独占・規制料金下の戦後体制から自由化の流れの中で私たち消費者がどう考え、消費者の権利及び利益確保と参加をどう行



COP21 が開かれるパリ北方の街頭に掲げられたポスター



ロラン島の港に浮かぶ浮体式風力発電装置（実験用）



海上から見るロラン島の風車発電群

動していくのか」をまとめました。

自然エネルギー100%の島

さて、今から3年前、デンマークの南部に位置するロラン島を訪問する機会がありました。そこでお会いしたのが、ロラン市議会議員通称「ミスター・エネルギー」と呼ばれるレオ・クリステンセンさんでした。レオ・クリステンセンさんは、過疎化や高失業率など様々な問題を抱えていたが、大手風力発電メーカーの工場誘致などの奇策が功を奏し、ロラン島を自然エネルギー100%の島へと導かれた

人物です。また、ロランの自治体は、再生可能エネルギーの実証実験の場として解放することで、多くの企業を誘致しています。さらに、大学や研究所が関わり、企業が地元の市民を採用することで、産学官のそれぞれにとってポジティブな関係を構築しています。そして、島全体も活気づき、「片田舎の最先端な場所」と言われるまでに発展しています。「3・11以降、日本は原発の稼働を停止しましたが、その分はそっくりそのまま化石燃料にシフトしただけで、根本的な解決にはなっていない？」とも指摘されます。

電力事業への参入

この4月からいくつかの生協は、消費者視点と未来志向で再生可能エネルギーを中心とした電力事業に参入します。今の生協の風刺画をポスターズさんに頼んだら、新たな電力事業への参入にリスクを考え悲観的になっている様子が周囲をうかがう生協の絵を描かれるかも知れません。

私も生協人の端くれとして遠吠えでもあげなければならないと思います。今です。

2016 協同組合学習会

広島県協同組合連絡協議会（HJC）



成熟した協同組合の課題と新しい役割

講義要約

「成熟した協同組合の課題と新しい役割」を主題に、増田教授は話の冒頭で、「T P Pで成長するのか?」「これから世界はどうなるのか?」、「協同組合の役割は?」と矢継ぎ早に問題を提起しました。

その上で、「アベノミクス」について触れ、成長神話への執着とその政策に疑問を呈します。また、日本の政策金利の長



開会の挨拶を述べる小田常務理事

3月25日（金）、「より良い社会を築く」をスローガンに掲げる広島県協同組合連絡協議会が、広島市中区大手町のJ Aビル会議室において『協同組合学習会』を開催しました。

午後1時に始まった催しは、広島県農業協同組合中央会小田政治常務理事の開会挨拶に続き

期推移、ゼロ金利は資本主義の終焉ではないか、と説きます。そして、これからは新しい経済システム、社会システムが生まれざるを得ない、と言い、人間の為の社会システムが必要で、そのためには協同組合の出番だと強調します。

とくに、新しい時代は、「儲けのための組織」から「生活のための組織」へと移行するべきだと説明し、ゼロ成長でも、豊かな社会は形成できると予測します。J Aの推奨する、地産地消は社会改革の最先端であり、地域の暮らしの立て直しにはF E C自給圏、「食料」(Food)、「エネルギー」(Energy)、「介護・福祉」(Care)、といった時代の要請に応える協同組合の事業を再認識させることが重要だと。増田教授は、そうした現代状

●増田佳昭氏プロフィール

静岡県出身。京都大学農学部農林経済学科卒業、京都大学大学院農学研究科博士課程修了。滋賀県立大学環境科学部教授。主な著書に「J Aは誰のものか」（家の光協会編著）『規制改革時代のJ A戦略』（家の光協会単著）『協同組合のコーポレートガバナンス』（家の光協会、共著）等がある。

協同組合学習会

各研究会報告

第1研究会

【テーマ】

「食料自給に地域で取り組む」
広島県農業協同組合中央会

協同活動推進部長 仁井本敏浩



第1研究会テーマを報告する仁井本部長

第2研究会

【テーマ】

「環境・森林保全に向けた
エネルギー自給に取り組む」
生協ひろしま

組合活動グループ担当部長 後藤陽一



第2研究会テーマを報告する後藤係長

第3研究会

【テーマ】

「つながり（福祉）を
地域で築く」
広島中央保健生協

生協組織部長 田中敬子



第3研究会テーマを報告する田中部長

特別研究会

【テーマ】

「平和に向けて
地域から取り組む」
広島県生活協同組合連合会

事務局 福島 守



特別研究会テーマを報告する福島事務局長

2015協同組合学校研修報告
生協ひろしま 佐藤公紀
報告の最後は協同組合学校の
研修報告。佐藤さんは、研修に
よって、現状認識と、生協人と
して、組合人として、実に多く
のものを、またこれからなすべ
きことを得たと報告。



研修報告をする生協ひろしま佐藤さん

第1研究会の研究活動報告は、地産地消の食料自給。仁井本部長は、①地産地消、農水産業・県産農水産物の理解促進、②地域通貨を活用した地域振興の2項目の研究活動を報告。県産農水産物の理解促進については、比治山短期大学での講義、大学と（農）かみやまとの農業体験学習コラボ企画支援、その他について詳細に説明。さらに、さらなる「地産地消」の取り組みに向けて、担い手の育成・確保、生産力・供給力の向上、生産者と消費者の連携による県内農林水産物の認知度向上、生産量の拡大、ネットワークによる商品の保管等の対応策と仕組みづくりについて紹介しました。

第2研究会は、環境・森林保全とエネルギー自給がテーマです。後藤係長は、これまでの主な調査・研究活動としてバイオマスの拠点と街づくりの実践事例の共有について紹介。「エコストープで野外科理」in世羅の報告、そして広島県の水力発電・小水力発電、太陽光発電所、バイオマス発電所を紹介しながら、県内の再生エネルギーのまとめに及びました。さらに、日本の再生エネルギーの実態と、世界の再生エネルギーの現状を紹介。将来的には、再生エネルギーの必要性を強調しました。

6つの構成団体からなる第3（福祉）研究会は、福祉を「つながり」として地域で築くことをテーマとしています。そのアクションプランは、①更なる取り組み強化、②地域との関わりを広げ、地域の役割を担う取組み、③課題・ニーズの把握の為に「地域懇談会」の協同開催の3つです。その結果として、田中部長は、「情報交換の場」、「交流発表会開催」、「情報収集・視察」の課題設定を行い、実践したことについて詳しく報告しました。結果として、研究会の活動を通じて、グループ同士の交流・顔の見える関係づくりが継続し、明日に繋がっています。

「被爆70年、戦争も核兵器もない平和な世界をめざして」と題する特別研究会の報告です。発表者の福島事務局長は、これまでの特別研究会の活動の経緯を先ず紹介しました。そして、2014年度の活動、さらに2016年1月の平和学習交流会『被爆70年、核の歴史と次世代へのアプローチ』で、長崎大学の中村桂子准教授の記念講演とシンポジウムを開催したことを紹介。この学習交流会では、①核問題は動いている、②日本が変われば世界も変わる、③未来は自分が選択する、といった次世代へのアプローチの核心を得たことを強調した。

申し合わせ

学習会の締めは、広島県生活協同組合高田公喜専務理事。高田専務は、広島県協同組合連絡協議会を構成する各団体の同志は地域の課題に眼を向けた取組みを総括し、協同組合間の協同を持てる運動を引き続き展開する、という「申し合わせ」を読み上げ、会を締めくくりました。



「申し合わせ」を読み上げる高田専務理事

特集2：福祉・医療を考える

医療生協と購買生協の連携による地域包括ケアの推進

広島県生協連では、2020年に向けたビジョンとして“誰もが安心してらせる持続可能な地域コミュニティの再生をめざして”を掲げています。ビジョンの柱の一つが「地域社会への関与」であり、『福祉・医療（Care）』分野を重視しています。

2015年度は、福祉・介護委員会を中心に介護分野の新たな活動にも取り組んでおり、それらの中から今回は、広島県の地域医療介護総合確保事業（新たな財政支援制度）〔※〕に関する取組みを紹介します。

〔※〕「地域における医療及び介護の総合的な確保の促進に関する法律（2014年第186通常国会で成立）」に基づいて、各都道府県に基金（地域医療介護総合確保基金）が設置されており、2015年度の事業提案に広島県生協連が補助を受ける事になった。

医療と介護の今後の制度動向を学び、
これからの介護サービスについて考える

介護セミナー

開催日 3月3日
会場 広島県生協連3階会議室
講師 馬袋秀男氏
テーマ 「これからの介護サービスについて考える」2018年介護保険制度改定など」
主催 広島県生協連・2012国際協同組合年ひろしま第3研究会（福祉）

3月3日、広島県生協連と2012国際協同組合年（IYC）ひろしまアクションプラン第3研究会（福祉）の共催で、介護セミナーを開催しました。講師は、現在「民間事業者の質を高める」全国介護事業者協議会の特別理事であり、国の社会保障審議会介護保険部会委員も務められている馬袋秀男氏です。

生協ひろしまや県内3つの医療生協（広島中央保健生協、広島医療生協、福山医療生協）はじめ、JA広島中央会、ワーカーズコープ、ひろしまNPOセンター関係など県内9団体から27名の役職員が参加しました。

前半は、2015年の介護保険改定で示された介護制度に関する国の政策の方向と、2018年度介護保険制度改定で議論になるポイントについて説明があり、後半は、地域包括ケアシステムにおける介護事業者の役割と取り組みや介護人材の確保に関する提案も行われました。介護システムを補完・充実する保険外サービスの創出の話し



介護セミナー会場の様子



講師の馬袋秀男氏

の中では、生協など暮らしの多面的な分野をカバーする組織の出番であると説明されました。人材確保に関しては、将来の担い手へ早期から介護業界の魅力や「定着の促進」、さらに多様な介護人材活用と生産性向上・イノベーションの創出などが説明されました。従業員満足と顧客満足度の向上を基本にした介護事業経営の提言は、私たち協同組合陣営にとって最も柱となる考え方であると再確認しました。最後は「広島県のエリア市場分析」の参考資料も説明があり、質疑応答・意見交換も活発に行われました。

医療と介護の連携を目指し、介護職員の
キャリアアップ研修を3会場で開催

介護職員キャリアアップ研修

これからの医療、介護は在宅が中心になってくることが確実であり、団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に地域包括ケアシステムの構築が求められています。

そうした中で広島県生協連では、地域包括ケアを進めて行く上で介護職に必要な医療的ケアや認知症ケア、重度化予防などの高度で専門的な技術を持つ介護職員の育成や、地域の医療・介護事業所間の連携を目的に、介護職キャリアアップ研修を県内3会場で開催し、150名が交流しました。

【広島北会場】

テーマ 「在宅療養支援診療所の役割と医療・介護の連携強化」

開催日 2月7日（土）

会場 広島医療生協沼田診療所
企画・運営 広島医療生協
生協ひろしま

研修内容は、①在宅療養支援診療所の看護師長から報告する在宅支援診療所の役割、カンファレンスや事例について、②グループ交流と発表、③在宅療養支援診療所長の西原医師からの講義とアドバイスでした。

グループ交流では、ケアマネジャーから診療所の医師に、利用者の主治医である開業医にどのように訪問医療や往診を働きかけたか良いかなど、日頃聞けないような率直な質問も出さ



グループ交流で質問に答える西原医師

れました。医師からは、多くの開業医も在宅医療を強化しないと今後やっていけないと感じているが、1人でどこまで対応できるか二の足を踏んでいる。ケアマネジャーからは、訪問看護とセットで開業医に働きかけるなども効果的とアドバイスがされました。

【広島西会場】

テーマ 「在宅生活を支える医療と介護の連携について」

開催日 2月18日（木）

会場 広島中央保健生協
企画・運営 けんこうプラザ
生協ひろしま

会場 広島中央保健生協

特集2：福祉・医療を考える

広島県生協連 2020 ビジョン

『福祉・医療（Care）』～人とのつながり、福祉助け合い～

- 購買生協や医療生協、他の協同組合や社会福祉協議会・NPO・ワークスなどの諸団体と連携し、地域のつながりネットワークを形成する。
- 高齢者や子ども・若者が集える居場所づくりを実現する。
- 介護・医療・地域福祉などの領域において県内生協の連帯を推進する。
- 高齢者や独居老人が増えていく中、住み心地の良いケア付き高齢者住宅を早期に実現する。
- 購買・医療生協や行政・諸団体と連携し、介護予防や健康教室などの研修や訓練を実施する。



在宅療養支援診療所所長 佐々木医師

在宅療養支援診療所の所長を囲んで、在宅で療養する患者さんやご家族への対応や職種の連携について議論しました。

初めにケアマネジャーから、退院して在宅生活を送ることになった患者さんに関する事例報告と質疑を行ったあと、グループで医療・介護連携で上手く行ったことや課題、連携強化のアイディアについて交流と討議を行いました。佐々木医師がグループを回りながらアドバイスを行い、最後にグループ発表を受けての講評とコメントがされました。

事業所間、職種間において、どういう間隔で、どういう情報が必要かについて事前に調整しておく。つまりシステムづくりが重要であること、退院時のカンファレンス（スタート）の大切さなど具体的なアドバイスと共に、患者さんの経済的な基盤の問題や、



グループ討議の様子

プライドを持って生きる存在であり尊厳を持つ人間として、権利の主体として患者さんと関わる事の重要性についても熱く語られました。

【福山会場】
テーマ「在宅で支え切るために医療と介護の連携について学び、語り合おう」
開催日 3月18日（金）
会場 福山市すこやかセンター
企画・運営 福山医療生協・生協ひろしま・社会福祉法人備後の里

福山会場では、3法人が実行委員会を作り、企画内容、運営方法等について協議を重ねて準備しました。福山医療生協・城北診療所の守屋師長から「事例を通して学ぶ在宅利用者への医療との連携について」の講義を受け、その後は、認知症の利用者の困難ケースについて、どのように対応すればよいか、どう



グループ交流の様子



会場の様子

広島県内3つの医療福祉生協では、組合員と職員が一緒になって、地域まるごと健康づくりの活動を進めています。この事が地域包括ケアを推進する事にもつながります。

2月24日には、広島医療生協で、そうした活動の実践交流会が開催されました。

●組合員と職員の総勢85名が集い、私たちが進めていきたい「地域まるごと健康づくり」とはをテーマに実践報告とグループ交流

●全国の医療福祉生協連合会からの報告や、行政との連携の中で空き家の活用・食事会・コーヒーカーフェ等に取り組む福山医療生協の実践、沼田診療所での地域訪問から見えてきた地域のたまり場づくり構想の報告に基づいて、10のグループでの交流が活発に行われました。

広島医療生協では、地域包括ケアの取り組み実践交流会を開催



講義をする守屋師長

いう経験があるかなどについてグループワークを行いました。

各グループは、様々な事業種類、職種のメンバーによって編成されており、医療と介護それぞれの視点についても学び合う事が出来ました。

電力自由化学習会 広島中央保健生協

4月から電力小売自由化スタート！ 電力小売自由化学習会を開催



学習会の様子。右は講師の日本生協連小熊部長

4月から家庭用電力小売自由化がスタートするにあたり、制度を正しく理解し、組合員への正確な情報提供とエネルギー問題に関する政策化を見据えて、電力小売自由化学習会を2月26日、講師に日本生協連政策企画部小熊竹彦部長を招き、32名が参加して開催した。

電力小売自由化の中、生協が果たすべき役割は、主体的な消費者組織として、消費者への情報提供活動と学習活動の推進、公正中立な比較サイトの育成や信頼できる相談窓口の紹介など

の取り組みが必要であること。また、改革を推進する事業者として家庭用エネルギー事業の可能性について提言をいただいた。

2017年4月には、都市ガスも小売自由化が予定されていることから、LPGガス事業の実情把握と改善への働きかけを含め、家庭用エネルギー料金制度に関わる地域の動きに注視していく必要がある。

私たちの行動や選択が未来を作っていくことを念頭に、エネルギー問題に取り組んでいく。

話に引きこまれ、涙とまららず 生協創立60周年記念講演会に500人

広島中央保健生協



2月20日、広島県民文化センターホールで広島中央保健生協創立60周年記念講演会が開かれました。「生協は互いに助けあう組織ですよ」と斉藤さん。たくさんの方々に支えられ、助けられてきたと言います。タイの山岳民族を訪れ、子どもたちが一生懸命学ぶ姿に心うたれ、3浪の末38歳で大学に入学し、社会福祉の道をめざしました。ちよ

うど同じ時に井上ひさし作「父と暮せば」に出演。広島を訪れ、被爆者、そして「きのこ云」と出会いました。「痛みをもつた人は、他人の痛みにも鈍感ではいられない」。そう斉藤さんは言います。参加者から「還暦のお祝いにふさわしい内容」「一言ひとことが心にしみ、涙がどーっと出てきた」などの感想が寄せられました。

(生協組織部 田中敬子)

みんなで広げよう！ すこしお生活 広島中央保健生協



「笑いケア体操」自転車こぎ笑い

ちなカルシウムやコクと旨味もアップ。レシピは味噌汁の味噌の量を半分にし、半分はヨーグルトを加える手軽に実践できる内容です。すこしお生活を行うためには、まず美味しい減塩商品で自分の舌で味わい、次に家庭で近い味になるよう実践していく方法を教わりました。

医療福祉生協でも、1日塩分6g未満をめざし、「すこしお生活」を提起しています。すこしお生活で病気の予防と健康寿命の延伸を目指し、参加した私達からすこしお生活がもつと広島県中に広がるよう社会に働きかけていける医療生協をめざしていきたいです。

(生協組織部 田中敬子)

(ごだわりのヘルシーグルメレストラン「広島」では広島県内にある飲食店で、1食分を低カロリー(400~600kcal・減塩(塩分2~3g))にしているランチを提供しているお店を多数紹介されています)



講師の日下美穂先生(日下医院院長)

広島医療生協健康まつり 消費者団体活動交流会

健康まつり2016開催！

広島医療生協



オープニング



健康まつり会場



大人気の子どもコーナー

2000人の参加で大成功！

広島医療生協は、3月27日（日）、広島共立病院旧館跡地・虹の会館にて、「健康まつり2016」を開催しました。心配した雨にも降られることなく、青空の下2,000人の参加で賑わいました。組合員さんだけでなく、ご近所の方、友好団体の方などの参加で、交流の場としても盛り上がりしました。会場となった旧館跡地は新たな駐車場となり、利用される方に便利になります。

今回の企画は、広島医療生協が創立50周年記念行事の一環として行いました。ステージは、太鼓本舗かぶら屋の勇壮な太鼓からはじまり、地域のサークルなどの発表が行われました。地元広島のメープルカイザーのヒーローショーには、ちびっこも大興奮。会場では、健康チエックや歯科チエック、医療・介護相談も行われました。フードコーナーや子どもコーナーも大人気で、どのコーナーも行列ができるほど賑わいました。多くの方に支えられての成功に心より感謝申し上げます。

（文責：広島医療生協組織部 山根康裕）



賑わう会場

消費者団体活動交流会開催 劇場型詐欺に騙されるな！

広島県消費者団体連絡協議会



広島県消費生活課 山根課長

の後グループで、「劇場型詐欺」をはじめとした消費者トラブルや各団体の活動などを通して思う事など、自由に交流を行いました。

参加者からは、騙そうとする仕組みがよく分かった。あの手の手で進化する消費者トラブルに巻き込まれないために、私たちも学習して、発信することが大切。また、普段なかなか他団体と交流できないので、このような交流・学習会は大変有意義だった。などの感想をいただきました。

広島県消費者団体連絡協議会では、引き続き他団体との交流の場を設け、情報の共有化を行い、連携しながら幅広い視野で活動ができる消費者団体の育成に努めて参ります。

（広島県生協連 為政圭子）



消費者一座による寸劇

続いて学習会では、弁護士の先生から最近急増している「劇場型詐欺」の事例をもとに、トラブルに巻き込まれない方法・考え方を寸劇で分かりやすく学習していただきました。

次に、広島県地域女性団体連絡協議会と廿日市市消費者協会より活動報告をいただき、そ

核と人類セミナー 特定商取引法を知ろう④



講演会会場



スティーブン・リーバさん

核と人類セミナー
核×核

フクシマ後を考える

2月20日(土) 広島市中区大手町平和ビル大会議室において、「核と人類―フクシマ後に考える」核被害者の今を知る・考える、という講演会が、核兵器廃絶をめざすヒロシマの会(HANWA)、広島県生協連等の共催で開催されました。この講演会の開催のために中心となって努力されたのは、平和活動家である平和文化センター前理事長のスティーブン・リーバさん、講演者は、原子力発電技術専門家アーニー・ガンダーセン氏と生物学者(米国・原子力情報サービス「NIRS」所属)メアリー・オールセン氏の二人です。



メアリー・オールセンさん



アーニー・ガンダーセンさん

会場を埋めた100名を超える聴衆を前に、A・ガンダーセン氏は、自身の専門分野から原子力発電(プルサーマル方式・MOX燃料使用を含む)の危険性を説明。M・オールセンさんは、放射能が人体に及ぼす影響、特に子どもと女性に対する脅威を、広島・長崎への原爆投下、スリーマイル島・チェルノブイリの原発事故のデータから強い警告を発しました。

二人の講演内容でいちばん驚かされたのは、被害の当事者である福島の人々と私たち日本国民が、事故の実態、放射能の影響についてほとんど何も知らされていない現実があるということです。また、東日本大震災から5年を経て、人々の記憶から原発事故が次第に風化しているという事実も実感として受け止められたことです。

少し残念に思ったのは、重大で充実した講演内容であるにもかかわらず、参加者が百数名に限られていたことです。もっと大勢の人々、また何らかの形で一般市民にもこの事を知らせるべきだということを、「平和を未来に継承」して行くために」強く感じた講演でした。

消費者ネット広島

特定商取引法を知ろう④

『電話勧誘販売について』

電話勧誘販売とは、事業者もしくはコールセンターなどの代行業者が、消費者に電話をかけ、商品の紹介や勧誘を行い、申し込みを受ける取引です。電話をいったん切った後、消費者が郵便や電話等によって申し込みを行う場合も該当します。

電話勧誘販売を行う事業者が守らなければならない主な規制には、「氏名、勧誘目的等の明示義務」「再勧誘の禁止」「書面の交付義務」等があります。

また、消費者に対して、契約を締結するかどうかの判断に重要な影響を及ぼす事項について、事業者が不実の告知(嘘など)をしたり、威迫・困惑させる行為は禁止されています。

訪問販売同様、電話勧誘販売の場合もクーリング・オフ制度が適用され、特定商取引法に定められた内容の契約書面を受け取った日から8日間であれば、消費者から無条件で申込みの撤回や契約の解除ができ、既に事業者を支払ったお金は返金され、違約金や解約料、損害賠償金などを支払う必要もありません。



消費者が商品を受け取っている場合は、事業者の負担で商品を引き取ってもらえます。(もし、事業者から商品を送り返すように言われた場合には、着払いにしてください。)

クーリング・オフについては分からないことがあれば、お住まいの消費生活相談窓口にご相談してください。

(文責：消費者ネット広島 宗山事務局長)

理事会報告 福祉・介護委員会報告 組織平和委員会報告

【公告】2016年度通常総会の開催について

広島県生活協同組合連合会は、2016年度通常総会を下期の通り開催いたします。

- 開催日時 2016年6月22日(水) 13:00～14:45
- 開催場所 ひろしま国際ホテル(広島市中区立町3-13)
- 議題
 - 第1号議案 2015年度活動報告ならびに決算報告承認と剰余金処分案承認の件
 - 第2号議案 2016年度活動方針ならびに収支予算案決定の件
 - 第3号議案 役員補充選任の件
 - 第4号議案 役員選任規約の一部改定の件
 - 第5号議案 役員報酬決定の件
- 代議員 総会代議員選出基準にもとづいて、3月末組合員数によります。各代議員数は、会員生協にお知らせします。
- 役員補充選任 定款第20条、第21条、第22条にもとづき、役員の補充を行います。役員に推薦すべき候補者は、役員推薦委員会で決定し総会に報告します。

広島県生活協同組合連合会 会長理事 岡村 信秀

第5回理事会報告

■開催日 2月18日

■場所 広島県生協連3階会議室

■出席 理事17名中13名出席

監事2名中0名出席
(出席理事) 岡村、高田、岡野、横山、高橋、吉山、武田、斉藤、乃美、金築、長谷川、戸田、門田

■議決事項

以下の項目について資料に基づき提案説明を行い、全員異議なく承認決定した。

(第1号議案) 2016年度通常総会について

- 2016年度通常総会開催要項
- 2016年度通常総会上程議案
- 代議員数の確定
- 議決権(書面議決書、代理人)に関する事項
- 総会での役割分担

(第2号議案) 規則の改定について(第3号議案) 常務理事会専決事項

- 他団体の公職承認の件
- 広島県ユニセフ協会理事
- 中国地方弁護士会連合会弁護士
- 任意資格者選考委員会委員
- ひろしま地産地消推進協議会専

第6回福祉・介護委員会報告

■開催日 3月3日

■場所 広島県生協連3階会議室

■出席 盛谷、志々目(広島中央保健)、斉藤、本浦、山本(広島医療)、乃美(福山医療)、横山、徳永、岡、西谷(ひろしま)、高田、岡崎(広島県生協連)

■報告・協議事項

- 人材育成WT「介護職員キャリアアップ研修」報告

門委員会委員

- 広島県生協連50周年記念行事企画の進め方について
- 日本生協連代表団への参加者派遣について
- 他団体への協賛・協力について

■報告事項

各事項について資料に基づき説明を行い、全事項について確認した。

- (第4号議案) 一般活動報告
- 医療・購買生協の共同事業化について(中間報告)
- 竹原生協・生協ひろしま連帯推進協議会報告
- 2015年度けんこうチャレンジまとめと2016年度の取り組みについて
- 電力小売自由化学習会について
- 2016年初級職員研修会について
- 2016年新春トップセミナー開催報告
- 広島県協同組合連絡協議会の取り組みについて
- 委員会・審議会報告
- 北朝鮮核実験に対する抗議文

2. 新地域支援事業に関する行政(広島市・福山市)の状況について
3. 生協共同事業化ロードマップについて
4. 2016年度福祉・介護委員会活動計画について
5. 介護分野の人事制度、賃金処遇制度について
6. 新地域支援事業への対応について

第6回組織平和委員会報告

■日時 2016年2月26日

■場所 広島県生協連3階会議室

■出席 越智(日立造船因島)、佃(広島県学校)、田中(広島中央保健)、豊村(広島県労済)上田、森島(ひろしま)、高田、福島、為政(広島県生協連)

■報告・協議事項

- 2016年度通常総会について
- 2015年度活動報告と2016年度方針について
- 2016年度平和活動について

(1) 2016年度平和活動方針(案)について

- (2) 2016ピースアクションinヒロシマの企画について
- (3) 2016「戦争も核兵器もない平和な世界を」市民の集いについて
- (4) 2016市民平和行進について
- (5) 新しい地域支援事業への対応について
- けんこうチャレンジ2015のまとめと2016年度取り組みについて

2016「戦争も核兵器もない平和な世界を」市民の集い

「戦争も核兵器もない平和な世界を」市民の集いは、市民6団体が立場や思想・信条を超え、平和のネットワークを結成し、行政も含めた幅広いネットワークで核兵器廃絶と戦争のない平和な社会づくりをすすめることを目的に、平成23年より開催しています。被爆から71年になる今年は、核兵器を取り巻く世界情勢について、広島平和文化センター小溝理事長よりご講演をいただき、これからの市民レベルでの平和活動について交流します。たくさんの方のご参加をお待ちしております。

■日時: 5月26日(木) 10時～12時40分 ■会場: 広島国際会議場ダリア

■主催: 「戦争も核兵器もない平和な世界を」市民の集い実行委員会

【実行委員会構成 市民6団体】

広島県原爆被害者団体協議会・広島県原爆被害者団体協議会・広島県地域女性団体連絡協議会

・(公財)広島YMCA・広島県青年連合会・広島県生活協同組合連合会

■後援(予定): 広島県、広島市、平和首長会議、(公財)広島平和文化センター

■参加規模: 120人 ■参加費: 無料

★プログラム(案)★

- 9:30～ 開場・受付 10:00～ 式典
10:20～ 情勢報告「2016核兵器を取り巻く世界情勢について」(仮題)
講師: 広島平和文化センター 小溝 泰義理事長
11:00～ 活動報告「広島市被爆体験伝承者の取り組みについて」
報告者: 被爆体験伝承委嘱者
11:30～ 交流会(被爆者の思いを聞き交流)
12:30～ 実行委員会構成市民6団体アピール 12:40 終了

■申込締切: 5月13日(金)

申込先 広島県生活協同組合連合会



核兵器廃絶に向けた 取組について

日々のことから

(公財) 広島平和文化センター常務理事
平和首長会議事務次長

城 一博

しろ かずひろ

1954年生まれ。1977年広島市入
庁。環境局次長、公立大学法人広島
市立大学理事・事務局長、中区長を
経て、2015年3月退職。同年4月
より現職。(役職は3月31日現在)

平和首長会議の取り組み 市民署名活動

世界の6900を超える都市
が加盟する平和首長会議では、
多くの市民の皆様の協力の下、
核兵器禁止条約の交渉開始を求
める市民署名活動に取り組んで
います。なぜ核兵器禁止条約が
必要なのか、なぜ市民の署名を
集める必要があるのかという点
について、最近の国際社会の動
向も含めて整理してみたいと思
います。

身をもって原爆の惨禍を体験
された被爆者の方々は、「こんな
思いを、他の誰にもさせては
ならない」という強い思いから、
思い出すのさえ辛い体験を語
り、核兵器の非人道性とその廃
絶を世界に訴え続けてこられま
した。また、使われないとされ
てきた核兵器が、十回以上も第
3次世界大戦の瀬戸際の危機を
生み、千回をはるかに超す事故
を起こしていた事が、記録の公
開で明らかになりました。

こうした事により、事故や誤
算によって核兵器が使われる危
険や、テロリストが手に入れて
使用する恐れが、存外に高い事
に国際社会が気づき、核兵器の
非人道性と使用の危険性を根拠
として、核兵器を禁止する法的
措置の早期実現を求める主張が
強くなってきました。

その結果2015年12月の国
連総会で、公開作業部会を総会
の下に設置し、核軍縮実現の為
の具体的かつ効果的な法的措置
について実質的に議論する事が
決まりました。公開作業部会は、
スイスのジュネーブにある国連
欧州本部で本年の2月、5月、
8月に開催され、国連総会に勧
告を出す予定です。率直な議論
が行われていますが、核保有国
は参加しておらず、法的措置は
時期尚早と訴えるNATO諸国
など核の傘の下にある国と、核
兵器禁止の早期実現を訴える非
核保有国との主張の違いが鮮明
になっています。

このような時にこそ、かつて
核軍縮を進展させた時の様に、
為政者相互の果敢なリーダー
シップによって事態を打開する
事が必要です。その為政者の姿
勢・信念に大きな影響を及ぼす
のが、国民世論・市民の声であ
り、それを見える形にして届け
るのが市民署名なのです。

1954年のビキニ環礁水爆
実験による第五福竜丸被爆事件
に反応して、東京都杉並区の読
書会グループの主婦達が始めた
核実験反対署名運動が、瞬く間
に3千万人規模の支持を集めた
ことをきっかけに国際世論が高
まり、米ソの核実験停止に結び
ついたという歴史上の事実は、

市民社会の影響力を証明してい
ます。



生活協同組合の皆様の 取組に思う

生活協同組合の皆様には、こ
れまでの市民署名活動に大変な
ご尽力を頂き、心から感謝を申
し上げます。実は、生活の皆様
とは、様々なイベントなどでこ
一緒する機会が多いのですが、
現場で接する大勢の方々から
とてもさわやかで力強い印象を
受けるのです。消費者自らが担
い手となり、人と人との結びつ
きによってより良い暮らしを实
現する為に活動するという理念
の下で、様々な事に取り組んで
おられるからだと拝察していま
す。

「わが子を核実験の被害者に
してはならない。」と立ち上がった
杉並区の主婦達の姿勢と何
かしら重なるものを皆様に感じ
るのは、私だけではないはずで
す。今後も核兵器廃絶に向けた
取組を粘り強く続けていく必要
があります。次代を担う子ども
達の為、しっかりと連携しなが
ら、共に歩みを進めたいと存じ
ます。どうぞよろしくお願い致
します。

【編集後記】

原発再稼働が堰を切ったように始
まったが、滋賀県大津地裁の決定で、
高浜原発の稼働差し止めが決まっ
た。多くの国民が胸を撫で下ろした
に違いない▼そうした中、2月20日、
「核と人類」フクシマ後に考える「核
被害者の今を知る・考える、という
講演(9頁参照)を拝聴した。講師
は、アメリカの原子力発電技術専門
家アーニー・ガンダーセン氏と生物
学者マーリー・オールセン氏のお二
人。二人とも、自身の専門分野から
原子力発電の危険性、放射能が人体
に及ぼす影響を、広島・長崎への原
爆投下、スリーマイル島・チェリノ
ブイリの原発事故のデータから強い
警告を発した。また、これまでの国
や電力会社の隠蔽体質も表面化した
▼一方で、4月から家庭用電力小売
自由化がスタートした。とは言っ
ても、限られた電力会社の中で、国民
の選択肢は狭い。そして、原発の稼
働がなければ、「電力価格が高騰す
る」という。だが、原発が稼働すれば、
国が保有するプルトニウムが増える
ばかりだ。(現在約45トン)3月23
日の新聞記事では、核物質の管理強
化を進める米国に協力し、331tの
プルトニウムが日本から引き渡さ
れた。1基の原発を1年間稼働させ
ると、原爆1個を製造できるプルト
ニウムが出来る。こうした恐怖から
いつ解放されるのだろうか。(Y)

平和とよりよき 生活をめざして



広島県生活協同組合連合会

〒730-0802 広島市中区本川町 2-6-11
第7ウエノヤビル 5F
TEL 082-532-1300 FAX 082-232-8100
E-mail : kenren.h@proof.ocn.ne.jp
URL : http://hiroshima.kenren-coop.jp